

## 佐世保市の国際化の現状

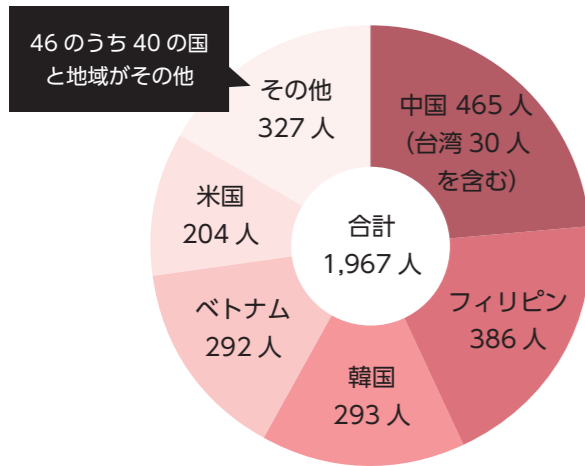
### 多国籍化する外国人市民

本市に住む外国人市民の国籍・地域は46に及び、多国籍化しています。

本市多国籍化の詳細は右の画像からどうぞ



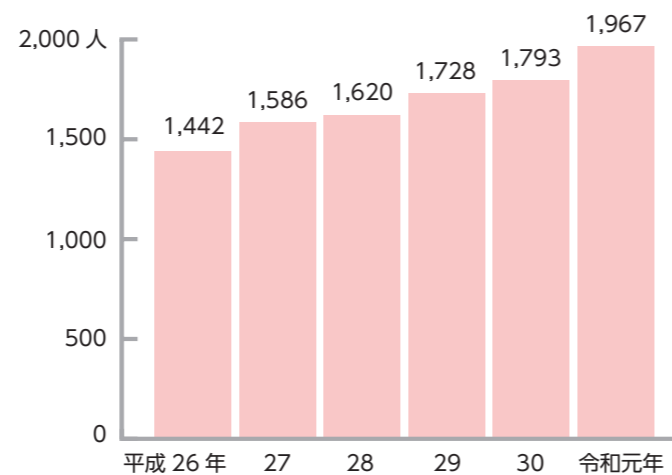
国籍・地域別外国人市民数



### 増加する外国人市民

外国人市民の数は年々増加傾向にあり、平成26年からの5年間で525人増加しています。新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、今後も増加することが予想されます。

外国人市民数の推移



※国籍・地域は在留カード等の国籍・地域欄の表記に基づくものです。

※米海軍佐世保基地に所属する軍人・軍属等は「日米地位協定」によって異なる扱いとなるため、外国人市民の数や上記のグラフには含まれていません。

特集

思いやりでつながるまちへ

# やさしい日本語と多文化共生

本市には、仕事や観光などの一時的な滞在や、本市を拠点とする仕事や留学などの長期間の滞在を目的にさまざまな国から多くの外国人が訪れています。今回の特集では、本市の「多文化共生」の状況や多様な文化・言語を持つ人々とのコミュニケーションツールとして注目を集める「やさしい日本語」についてお知らせします。



### お互いに尊重し支え合う「多文化共生社会」を目指して

米海軍佐世保基地がある本市には、令和2年3月末時点で米海軍関係の外国人が約7,000人在住しています。また、米海軍関係以外にも46の国と地域の外国人が約2,000人居住しており、外国人市民(米海軍関係者は含まない)はこの5年間で525人増加しています。現在は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって、一時的に入国ができない人も多くいますが、今後本市はより国際色豊かなまちになることが予想されています。

生活者としての外国人市民が増えることによって、職場や学校、地域活動など、普段の生活の中で

外国人と接する機会は自然と増えていきます。日本人市民と増加する外国人市民が共に生活する「多文化共生社会」では、お互いの文化を尊重することや共に支え合うことが重要です。

さまざまな国や地域の人が住みやすいまちであるためには、国籍にかかわらず、多くの人が多文化共生について主体的に考え、相手を理解し思いやる必要があります。

本市では、多文化共生社会に向けてさまざまな取り組みを行っていますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

## 佐世保市外国人市民アンケート

### 比較的高い日本語理解度

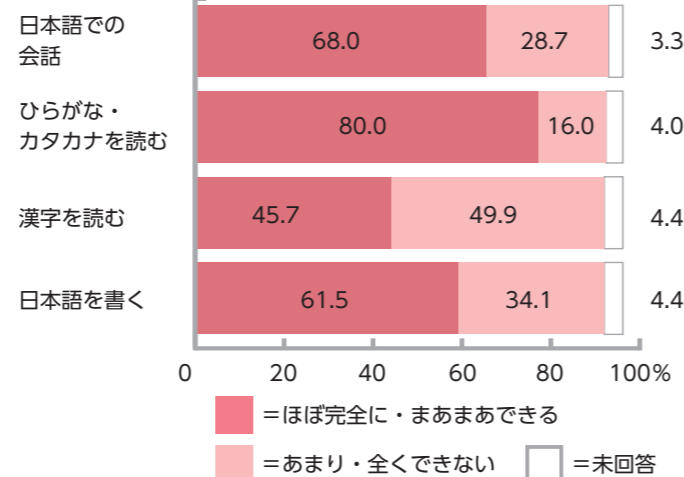
本市が行ったアンケートでは、日本語での会話を約7割の人が、ひらがな・カタカナの読みを8割の人が「ほぼ完全に」「まあまあ」できると回答し、日本語理解度は比較的高いことが分かっています。

※23歳以上の外国人市民900人と市内の留学生545人を対象。有効回答数481件。

アンケート結果の詳細は右の画像からどうぞ



日本語の能力はどれくらいか



## 「やさしい日本語」のポイントと例文

「やさしい日本語」は伝えたいことをまず日本人に分かりやすい文章に変換し、次に外国人にも分かりやすく変換する手順で作成します。ここでは、分かりやすい文章に変換の際のポイントや例文を紹介します。

### 日本人に分かりやすい文章に変える

#### ポイント

- 情報を取捨選択する
- イラストや写真、図、記号を使う
- 一文は短くする
- 箇条書きを活用する
- 外来語に気を付ける など



### 外国人にも分かりやすい文章に変える

#### ポイント

- 読む人の立場で考える
- 簡単な言葉を使う
- 略語は使わない
- 年号は西暦、時刻は午前午後を使う
- 漢字の使用量に気を付ける など

## 「やさしい日本語」を地域の共通言語へ

外国人が日本で安全に安心して生活するためには、日本のルールや各種手続き、災害・避難情報をはじめとするさまざまな情報を正しく理解できることが必要で、そのための情報発信とコミュニケーションツールとして注目されている「やさしい日本語」について紹介します。

### 「やさしい日本語」とは

相手に合わせて、分かりやすく伝える日本語です。外国人だけでなく、子どもや高齢者、障がいのある人など、さまざまな人に使うことができます。

### 外国人との共通言語は英語じゃないの？

国立国語研究所の調査によると、日本に住む外国人は、英語より日本語ができる人の方が多いため、「やさしい日本語」と英語を組み合わせるとより伝わる確率が高まります。

### 「やさしい日本語」も英語も通じないときは？

翻訳機を活用しましょう。「やさしい日本語」は、伝えたいことを整理して表現するので、他の言語に翻訳するときにも役立ちます。

### やさしい日本語ができたきっかけ

1995年の阪神・淡路大震災では、日本語も英語も理解できないために避難が遅れた外国人が多くいました。そこで、外国人にも必要な情報を迅速に伝えるために考案された言語が「やさしい日本語」です。

※文化庁では「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」を作成されています。

文化庁ガイドラインには  
右の画像からどうぞ



### 書き言葉・案内文書など

#### 例文

- 警戒レベル4：対象地域住民のうち危険な場所にいる人は全員避難



情報を整理して、ふりがなを振る（ふりがなは漢字の上に付けるほか、漢字の後にカッコ書きすることでも表せます）

- 警戒レベル4：危険な場所にいる人はみんな今すぐに逃げます

- 警戒（けいかい）レベル4：危（あぶ）ない場所（ばしょ）にいる人（ひと）はみんな今（いま）すぐに逃（に）げます



### 話し言葉

#### 例文

- 佐世保市から警戒レベル4「避難指示（緊急）」が発令された段階です。対象地域の人は全員速やかに危険な場所から避難しましょう。



情報を整理して、短く伝える

- 佐世保市が、今すぐに、逃げてくださいと言っています
- ここは危ない場所ですから、すぐに逃げましょう

### その他（日付・時間など）

- 令和3年1月10日15時～  
⇒ 2021年1月10日午後3時から
- 令和3年度  
⇒ 2021年4月1日から2022年3月31日まで

### 専門家に 聞きました



長崎短期大学  
岩崎 千恵 准教授

### 人と人との間を取り持つ「やさしい日本語」

街中で外国人を目にする機会が多い佐世保市は、歴史的に多文化共生に接してきた地域だと思います。これまで多文化共生についてはあまり意識していなかったと思いますが、「やさしい日本語」をご存じの方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。

来日する外国人は、留学生や実習生、仕事や結婚での移住者など、さまざまな立場や文化を持っており、コミュニケーションを円滑にするためには、相手の視点に立って考えることが重要です。

そうした思いやりの気持ちを伝えることができるコミュニケーションツールとして、「やさしい日本語」があります。「やさしい日本語」はまず発信者が伝えたい情報を自分の中で整理し、日本語に変換します。次に、情報を受け取る方が簡単

に理解できるように、相手の立場や文化に配慮した視点で変換します。全ての人にとって共通の言語がないように、「やさしい日本語」も全てに対応することは難しいですが、0%だったものが10%でも伝えられるようになります。多くの人があることを知り、実践することで伝わる割合は積み重ねられます。

また、「やさしい日本語」は伝えたい情報を簡潔に伝えるので、連絡ミスや理解の不一致を減らすこともでき、日本人同士でも大変有効です。

さまざまな立場や文化の人がお互いのことを認め合いながら一緒に暮らすことができる共生社会の実現のために、多くの人に「やさしい日本語」を実践してもらいたいですね。

（取材日 11月25日）



イェ ヨンファ  
叶 永華さん  
(中国)

最初は地域の人とあいさつしかできなかったのですが、日本語が分かるようになって関わりが増え、生活が楽しくなりました。



ハイメ・アルフォンソさん  
(フィリピン)

漢字にふりがながあるだけで読めるようになる人は多いです。日本語を勉強中の人に向けて、やさしい表記が増えるといいですね。



ワング・トーマスさん  
(米国)

生活の中で日本語を話せたらうれしいので、日本語で接客してもらえるお店を探して食事を楽しんでいます。



タッド・ゴット・ウィンさん  
(米国)

少し日本語に慣れた人でも、日常会話で使わない特殊な言葉は覚えづらいです。話しながら学び合える環境がうれしいですね。



グエン・ゴック・ミンさん  
(ベトナム)

日本語を学習するようになって、うれしいことが増えました。もっと日本人に話し掛けることができるようになりたいです。



ジョン・トランさん  
(米国)

ここでは日本語を学び、仕事では英語を教えています。佐世保の人はみんな優しいです。

(取材日 11月21日)

### 佐世保国際交流ボランティア協会

平成10年4月設立。外国人への日本語支援や交流イベントの開催のほか、日本人向けの英語・韓国語・中国語教室の開催など、さまざまな活動を行われています。

問い合わせ  
〒857-1174 天神2丁目200-26  
TEL: 56-4687 (ファクスも同じ)  
Eメール: fis\_sasebo@outlook.jp  
※事務局は毎週火・金曜 15時～18時。

## 日本語でつながる多文化交流

国籍や人種を超えたさまざまな国や地域の人々とのふれあいの場を創出し、住みやすさを感じる魅力あるまちを目指すための活動をされている佐世保国際交流ボランティア協会で、日本語を教える大学生と日本語を学ぶ外国人の皆さんに話を伺いました。

### 日本語を教える目線での多文化交流

#### 「楽しい」でつながる日本語の輪

佐世保国際交流ボランティア協会

日本語支援クラス担当 橋口 未来さん  
宮本 真希さん

佐世保国際交流ボランティア協会日本語を学ぶ外国人に日本語を教える活動をされている大学生の2人に、活動を通して感じたことなどを伺いました。



宮本さん(写真左)と橋口さん(写真右)

「大学の授業の一環で佐世保国際交流ボランティア協会のことを知り、楽しそうだったことと多文化共生に興味があったため活動に参加するようになりました」と話すのは、長崎県立大学の橋口未来さんと宮本真希さん。2人は昨年6月から佐世保国際交流ボランティア協会日本語学習の支援活動に参加されています。

日本語を教える立場になり、宮本さんは「私たち日本人が普段使っている漢字やカタカナが外国人の皆さんにとって分かりにくいこと、また日本語は主語が抜けている場合が多いことなど、改めて気付かされることが多くあります」と話します。また、橋口さんは「日本語の言葉の意味を教えるため、まずは自分がその言葉の由来や日本の文化を理解する必要があると思いました。日本の文化を踏まえた上で、相手の文化に配慮し説明すると、皆さんの理解も深まり、覚えてもらいやすくなるのが分かりました」と話します。

苦労している点を尋ねると、宮本さんは「例えば『お父さん』という言葉は、話すときは『おとーさん』ですが、書くときは『おとうさん』となるように、話し言葉と書き言葉で違う場合があることを理解してもらおうことですね」と話し、橋口さんは「母語だとそのような例を重ねていくうちに次第に受け止められるのですが、第二言語だと受け止められないことがあります」と話します。「日本語の教え方や日本語を教える中で生じるさまざまな問題などは、自分で考えたり他の支援者の皆さんに聞いて解決策を探したりするため、私たちが多くのことを学べます」と2人は口をそろえます。

外国人の皆さんは日本語の資格取得やそれぞれの目標に向けて日本語の学習を始められています。学習する人も教える人も「楽しい」という共通の思いがあるため続けることができ、「教室の後、皆さんが覚えてたの日本語を使って話している様子を見ると、自分たちが教えた日本語が、国籍の違う皆さん同士のコミュニケーションにも役立っているんだとうれしくなります」と橋口さん。宮本さんは「学んだ日本語を使い相手に話が通じることが楽しいみたいです」と教えてくれました。

今後について尋ねると、宮本さんは「外国語などをもっと勉強して多文化共生のためになることをしたいです」と抱負を述べ、橋口さんは「今後も外国人の方は増えると思いますし、何より自分が楽しいので支援を続けていきたいです」と笑顔で話していただきました。



日本語支援クラスの様子

(取材日 11月25日)

## 多文化共生セミナー

今回紹介した「やさしい日本語」について、一緒に学び、実際に使うセミナーを開催します。

日程 2月23日(火・祝) 13時～15時

場所 アルカス SASEBO

料金 無料 定員 50人程度

申込 1月10日(日)以降に氏名と電話番号を明記してEメール(koksai@city.sasebo.lg.jp)か電話で国際政策課へ

メ切 2月12日(金)

市ホームページには右の画像からどうぞ



## 多文化交流ネットワーク

～つながる、つなげる、解決する～

国際交流や多文化共生の活動、外国人市民の皆さんの困り事などで「他の人に相談したい」「協力してほしい」「何か手伝いたい」という思いがあるけど「どこに聞いたらいいかわからない」という皆さん、まずは国際政策課にご相談ください。関係団体や個人、外国人市民の皆さんとのネットワークをつくり、仲間を見つけます。

市ホームページには右の画像からどうぞ



## 韓国料理リモート教室



韓国国際交流員  
李 城姫さん

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、予定していた事業が全て中止となり、いつ再開できるかめどが立たない中、今できることから始めようと思ひ、オンラインで行う料理教室を企画しました。



料理教室で作るメニューは、①韓国の家庭でよく食べる料理②できるだけ簡単に作れるもの③近所のお店で買える材料で作れるもの、という3つの基準で選んでいます。参加者の皆さんからは好評の声をいただき、全6回の予定を10回に増やし3月まで開催することが決まりました。現在は海外にいつ旅行できるかわからない状況ですが、この韓国料理リモート教室を通じて、韓国のことを身近に感じていただき、参加者の皆さんが少しでもわくわくする時間となるよう、最後まで頑張ります。残り3回ですが、たくさんの人に参加していただけると嬉しいです。お待ちしております！

韓国国際交流員の李 城姫さんによるテレビ・WEB会議ツール ZOOM を活用した韓国料理教室です。自宅で説明を聞きながら、身近な食材で作れる韓国料理と一緒に学んでみませんか。

日程 1月23日(土) 11時(約40分)

内容 プデチゲ(スパム入りピリ辛鍋)

料金 無料

申込 氏名と電話番号を明記して、Eメール(koksai@city.sasebo.lg.jp)で国際政策課へ

メ切 1月15日(金)

※料理に必要な材料やアプリの利用方法など、詳しくは申し込みの際のEメールアドレスに送付してお知らせします。

詳しくは市HPへ右の画像からどうぞ



## 多文化共生社会に向けた本市の取り組み

コミュニケーションの導入として「やさしい日本語」の取り組みを進めることと同時に、多言語に対応した情報発信の取り組みを進めることも重要です。本市では、多文化共生社会に向けたさまざまな取り組みを進めています。

### やさしい日本語×音声翻訳機×電話通訳

#### やさしい日本語職員研修を開催



「やさしい日本語」を使える市職員を増やすために、昨年10月から窓口対応する職員を中心にとした研究会を開催しています。

#### 長崎県外国人相談窓口電話通訳を利用

電話通訳を利用した多言語対応を窓口などで行っています。

#### 対応言語

英語、中国語、フィリピン語(タガログ語)、韓国語、ベトナム語、ネパール語、ミャンマー語、インドネシア語、シンハラ語、タイ語、マレー語、クメール語、モンゴル語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、イタリア語

#### 音声翻訳機を導入



市役所での各種窓口手続き等において、在住外国人の方々と多言語によるコミュニケーションを取るため、多言語音声翻訳機(11カ国語対応)を導入しています。利用を希望される方は各窓口の職員に気軽にお声掛けください。

#### 設置場所

市役所本庁舎、中央保健福祉センター

#### 対応言語

英語、中国語(簡体字)、韓国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ミャンマー語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、フィリピン語(タガログ語)

### 「やさしい日本語」による情報発信

市ホームページでは、新型コロナウイルス感染症の情報を「やさしい日本語」で発信しています。文章は他の言語にも機械翻訳しやすいようにしています。また、台風などの自然災害が起きた際も「やさしい日本語」で情報発信します。

市ホームページには右の画像からどうぞ

